



福井商工会議所青年部 会報

福居



会 報

第 4 8 号

平成 2 年 12 月 13 日 発行

発 行 所

福井商工会議所青年部

発行者：林 逸 男

編集者：佐々木 清 史



「翔け世界へ 新しい時代の開拓者」

パイオニア

第十回商工会議所青年部全国大会 浜松にて開催される

第十回商工会議所青年部全国大会が十一月十六・十七日静岡県浜松市のグランドホテル浜松にて開催された。「翔け世界へ、新しい時代の開拓者（パイオニア）」をスローガンに、全国から次世代を担うリーダーが二、六〇〇名参加し、前回の高知大会を一、〇〇〇名近く上回る過去最大の規模となりました。これには浜松が日本列島の中心部に位置し、交通の便が良かったこと、そして何と云っても地元関係者の情熱が多大であったことによるものと思われまます。

福井のモデルと言われる

駅前再開発事業も、既に第一段階を完了し、目下アクロシティ計画なる第二段階の事業に着手しています。福井の駅前再開発事業が出来るのが十数年後とか言うこと、現在の浜松をモデルにしているだけでは時代のニーズに合わないものになりはしないかという懸念もありました。

コンペの方で当青年部の如

さて、全国大会の方はというと、初日が親睦ゴルフコンペ・地場産業視察ツアー・大会式典及び懇親会。二日目が記念講演会・エクスカーションというスケジュールが組まれました。

我々福井からは四名が初日午前からゴルフコンペ、十九名が午後の式典からという風に、総勢二十三名が参加した訳ですが、ゴルフ

安さんがゴルフ歴数ヶ月でありながら、ハーフ四十九のスコアをマークしたとあって、多くの参加者がショックというか刺激を受け、帰福して早々に練習場に足を運んだということだ。

次に大会式典ですが、オープニングに映像と音による浜松の産業と観光の紹介が大スクリーンに映り出され、迫力満点の幕開けとなりました。

小林幹雄商青連会長、石川六郎日本商工会議所会頭らの来賓挨拶に続き、地元浜松の神谷竹彦大会会長が「地域経済の発展と、各企業の経営基盤拡充の為、相互研鑽と交流を深め、二十一世紀への十年を走るエネルギーとアイデンティティを土産にしていって欲しい。」と呼びかけました。席上、青年部のCI事業の一環として生まれた新ロゴマークの発表もなされ、次年度の大会を島根県松江市で開催することを約して式



第10回 商工会議所青年部 全国大会

典を終了しました。引続き懇親会が催された訳ですが、この頃には大会も最高潮となり、カジノや模擬店、ステージショーなど盛り沢山の趣向を凝らしたアトラクションが開演され、時には理性を忘れて本性むき出しで活発に行動する一幕も見られ、これこそ

神谷大会長の言われるエネルギーとアイデンティティだと感じ入ったものです。食事風景は二、六〇〇名もの人がごった返し、なかなか食べ物にありつけず、さしづめサバイバル戦を展開していましたが、それでも今回初めて参加した当青年部のメンバーは口をそろえて「全国大会はいいもんや。」と言っていました。

何良かったのかは人それぞれでしょうが、それだけの値打ちがあるということ、未参加の方は次回からは是非参加してみてください。二次会は地元青年部の世話で二班に分かれて浜松の夜の街へと繰り出しまし

た。どこもかしこも大会参加者の渦で、福井であったならパンクしていたでしょう。しかし、観光で訪れただけでは知ることの出来ない地元の人達の生活の臭いのする人情の機微に触れたことは思い出深いものとなりました。

二日目の記念講演は、「第三の波」で著名なアメリカの未来学者、アルビン・トフラー氏が、「パワーシフト」と題して、これからの国際社会の展望と日本の立場、そして日本青年の役割など質疑応答も含め、二時間に亘って語ってくれました。イヤホンレシーバーを全員手にして同時通訳の講演を聞いたことは、英語を理解出来ない私にはとても有意義な体験でした。大会はこの後エクスカーションへと場を転じて行きましたが、我々福井のメンバーはスケジュールの都合で参加せず、浜名湖に立ち寄り、名物うなぎ料理を食し、途中名古屋市外、長久

男の料理教室

『中華料理に挑戦!!』

去る十月二十六日(金)、十月度例会が、浅田クッキングスクールにおいて開催されました。私にとっては、これが二回目の例会でしたが本格的な中華料理に挑戦しようという企画で、いつもとは少し趣の異なるものとなりました。

普段は、インスタントのラーメン程度しか作ることはない私が、『本格的な料理は、やっぱり男が作るもんや!!』と、意気込んで来たものの、出掛けに妻から『おいしい料理、家でも作ってネ!』と、エプロンを差し出されながら、言われたのが、妙にプレッシャーに感じました。

会場に来ると、慣れないエプロン姿の男達が、お互いに恥ずかしそうに、談笑していました。そして、福よかな笑顔の可愛い? 浅田先生より、本日の料理の作



り方について簡単に説明があった後、早速四種類の中華メニューに取りかかりました。制限時間は六十分、まさに六十分タッグマッチ、四本勝負のゴングが鳴らされた訳です。

最初は皆、戸惑い気味でしたが、若くて美しいスクールの生徒さんに、優しく手助けをして頂きながら、八宝菜の材料の、皮を剥く人、洗う人、高度テクニクク、イカに賽の目の切れ目を入れる人、又、中華マシンの具を生地に詰める人と、

それぞれが分担しながら、作り上げていきました。

やがて、フライパンからおいしい匂いが立ちこめてきたところで時間終了。各班共、五分前後の遅れはあっても、ほぼ時間内で、素晴らしい料理が完成した様子。試食では各テーブルからは、さすが自分達が作っただけあって、必要以上に『うまい/うまい/』の声が連発されました。中には『ビールは、無いんけ!』と叫んでいる人もいたようです。

しかし、私の班では、あんなかけ用の材料を、八宝菜の中に全部入れてしまい、他の班の人にお願ひして、少しづつ分けてもらったという一幕もありましたが、楽しい一時を過ごせました事、幹事さんと浅田先生、そして、特にアシスタントの生徒の皆さんに、深く感謝致します。

この後、定例の議事があり、お開きとなりました。池内 昭彦

さくらルネッサンス事業

記念モニュメント

除幕式典日決定

さくらルネッサンス事業として準備を進めておりました記念モニュメント式典日が、平成三年四月十四日(日)にこの程決まり、モニュメントの形状、詩も役員会にて、決まり、詩の内容については、福井市出身で我々青年部と近い年代の俵万智さんにお願ひし作品二作を送ってもらいその中の一つが大武幸夫福井市市長の推薦と当青年部メンバーの若い感性で選ばれました。

さくらさくらさくら
咲き初め咲き終り
なにもなかった
ような公園
俵 万智

青年部全員参加!!
日時 平成三年四月十四日(日)
場所 足羽山

営業案内

- 会席料理 宴会商談・御家族団らんに
- 出張料理 パーティ用・和風料理
- 仕出し料理 御結納料理・御法事料理
- 幕の内料理 各種御会議に

(株) かつき

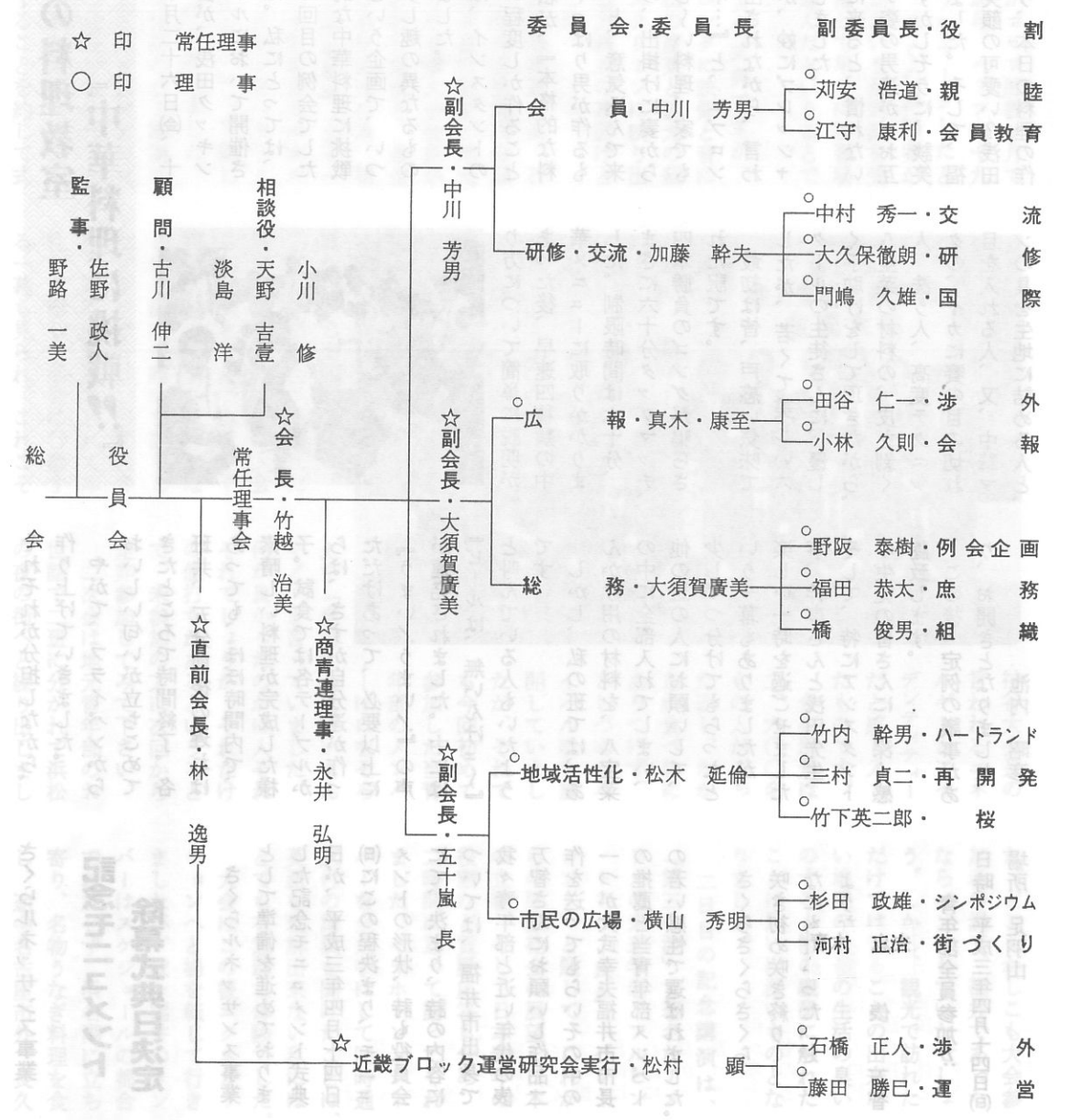
福井市中央3丁目3番4号
電話 (0776) 24-0470・23-0609

手町にあるトヨタ博物館を見学して帰路に就きました。今大会を通して、大会会場として一民間ホテルがあられたこと、しかも三、〇〇〇名近くの人を一度に呑み込んでコンベンションを開ける能力があることは、うらやましい限りでした。また浜松には全国いや世界的に名を馳せている数々有力企業があり、今大会の協賛として参画し大会を盛り上げる一翼を担っていることは、恵まれているとしか言いようがありませんでした。

最後に、かくも盛大な大会を実現すべく地道に準備を重ねて来られた関係者の皆さん、ご苦労さまでした。また、誠意と心温るおもてなしをいただき深く感謝いたします。そして、二日間の日程に同行いただき、色々なお世話をおかけしました京福電鉄の運転手さん、ガイドの中村さん本場に有難うございました。

三村 貞二

平成3年度福井商工会議所青年部新役員組織表



翔生ゴルフ 報告

十一月八日(木)、前日までの雨もあがり、秋晴れの中山原ゴルフ場にて、第二〇回翔生ゴルフ記念コンペが開催された。青年部の行事なのになぜ雨が降らないのかなという声の中、今回は記念コンペということで、ディフェンディングチャンピオン争いも加わり好ゲームが展開された。一打一打の明暗が優勝争いに響き、最高ハンディと次年度会長に決定したというところで、神のご加護があったのか、竹越副会長が一打差にて初優勝という事になった。前回までビリ争いをしてきたことを思えば、大変なレベルアップであった。次回からも多数の会員の参加をお願いします。

優勝 竹越治美 NET 68
 優勝 齊藤真一 " " 69
 次勝 三村貞二 " " 71
 三位 チャンピオン 田谷仁一

リレー随筆

ある長い一日

竹内 幹男

雨は相変わらず降り続いてきた。降り初めからの雨量は相当なものだろう。「くそっ。何だっってこんな日に。」と、イライラしながら外を眺めていた。場所は、芦原温泉。今日は、我社にとって創立以来最良の日であった。設立十周年を迎え、全国から代理店やお世話になった人達を招いての記念式典を終えて、そろそろ夜の宴会が始まろうとしていた。

しかし、イライラする程私が空模様を気にしていたのは、単に気分的なものではない。(そんなことは、とうの昔にあきらめている。会社の行事が天気に恵まれたためがないのだから...)翌日のゲストの接待の一部として、ヨットに乗っても

らおうと、三国で準備をしていたからであった。「ヨットが流されています。」との知らせを聞いたのは、それから間もなくであった。すぐに私と徳也さん(我社の常務・ヨット部々長)の二人は九頭竜川の係留地に向かった。見れば停泊した場所よりもかなり下流へ流されている。しかも、船首が反対を向いている。濁流の勢いは、まだまだ増しているようで、このまま放っておくわけにはいかない。しかし悲しいかな、普段は教習を母港にしている私たちにとって、知人もなく、慣れない三国では、とれる手段は限られている。とにかく何とか岸から30m程のヨットに乗り込み、まずエンジンをかけ、アンカー(錨)を上げようとした。しかし、流れが速いうえ、船首が川下

をあきらめ、ロープを切り離した。支えをなくした船は、すぐに流れに押され、どんどん川下へ、そして川の真中へと流れ始めた。「どこか今夜だけでも係留できる場所はないかな。」と話しつつ、エンジンの出力を上げようとした。ところが時折煙が出るだけで、出力が全く上がらない。二人の顔はひきつた。もうかなりの速度で流されている。流されている時は、舵はきかない。一瞬、港の防波堤への激突が脳離をよぎる。急いでセイルを張って帆走(風を受けて走る)するか、しかし二人しかない。しかも慣れない港で、しかももうすっかり暗い。絶望感に襲われながらも、次の手を模索し始めてしばらく...。天から見放されたわけではなかったようだ。エンジンが少しづつ調子をとり戻してきたのだ。こうして雨と冷汗とでビショ濡れになりながら、数

時間回避劇を終えて、宴会会場に戻ってみると、すっかり宴のあと。仲居さん達が料理を片付け始めていた。ちょっと待ってもらって、ごはんをかき込んだ時の、充足感は、とても心地良かった。この後はツキの流れが変わったように、翌日は、大変良い天気、ゲストの人達にも喜んで帰りの航海も、とても楽しかった。

まだまだ、ヨット歴は浅いが、海や風といった、自然を相手にするこのスポーツ(?)に魅せられているこの頃である。

次回は 大須賀廣美さんへ バントタッチ。

＜会社設立＞

・天野吉 壺

日本DCフーズ 株式会社
 福井市花月二一―一二
 電話 二五―九五〇九
 FAX 二五―九四〇九

防火器・自動火災報知設備・避難設備・ポンプ・ホース
 その他あらゆる防災機器のそろう店

暁産業株式会社

本社 福井市大手3-11-4 TEL 0776-22-3400 夜間22-3262
 FAX 0776-27-6590
 サービスセンター 福井市問屋2-41 TEL 0776-22-2462

企業訪問

「ボイラー」の

榑福井製作所

専務 中川 芳男

異業種交流に賭ける当社は昭和元年創業、県内では古株の鉄工所。県内唯一のボイラー、メーカーであり、圧力容器の製造、冷暖房、溶接配管が得意であり知名度が高い。通産省の溶接技能の確認も受けており、市ガス局の製造設備も当社の技術で完成した。

異業種交流も活発に行ない、特許獲得に社内の特許管理士を置いている。最近では食品加工機械の開発が多い、特に左の写真にある



NHKトライアンドトライ 62/3放映

①「ボンレス焼魚機」焼き魚を形や風味を損なわずに骨だけが軟らかくする方法を開発した。

近所の水産加工業者から魚は減るし、頭と骨を取ると六割りしか残らず、何とかと有効利用法はないかと相談を受けたのがきっかけ。県外国外から引合いが活発である。

②酒米の蒸し器

(米粒の中心がやわらかく外側が硬い方が良い) ↓ この逆は簡単ですがね

③魚の乾燥機(天日に近いものになる)

④おかゆ製造機

その他県内企業との共同開発もあるが極秘扱い。当社の基本方針は、少数精鋭高資金主義、堅実経営をモットーとして全員の永続的幸福を追求し適材適所能力主義の人事で学歴年功にこだわらず家族的雰囲気地域社会に貢献できる企業を目指す。

社員は月一回の定例全大

会議として、うまい物食べ歩きを楽しみにしている。

「ふるさと市民ゼミ」にて

核ルネッサンス

事業を紹介

去る十月二日、大野市民会館において「ふるさと市民ゼミくまちづくり、まちおこしを考えよう」が開催された。大野青年会議所主催によるもので、会場には約七十名の市民が集まった。

当青年部からは林会長が招かれて、FUKUIさくらルネッサンス事業の事例発表を約二十分間行った。

このほか、市外の町づくり事例として、諏訪湖浄化推進連絡協議会のスライド、信州須坂町並みの会などの発表、市内の町づくり事例として、和泉村商工会青年部のさんそんでシャンソン、大野商工会議所青年部のまちなみフォーラム、旧町名復活市民の会の旧町名復活運動などの発表があった。

県商青連

スポーツ大会

十月十四日、国見岳森林公園で、雨天にもかかわらずスポーツ大会が決行されました。当日は雨と霧という内容だったので最初参加者全員でパーベキューにて懇親を深めその後、大人も子供も参加してマレットゴルフを行ない、大きな笑い声の中で終る事が出来ました。

砂河 正光

ビデオソフト

「必ず成功する

採用面接」

を制作中

地域活性化委員会では、異業種交流による新製品開発を目標とした事業として、中小企業の人材採用問題をとりあげ、『福井県中小企業経営者の「必ず成功する採用面接」と題するビデオソフトを現在制作中です。

内容は、中小零細企業が、新人類といわれる若者を採用する(言い換えれば若者に来てもらう)上で、重要な判断要素となる「面接」にテーマを絞り、若者に好印象を与えて採用に結びつけるためのノウハウを収録しています。

舞台は三K企業の典型といえる鉄工所で、面接室や、小道具の準備、担当者的心構え等を、ナレーションや文字テロップで解説。面接の場面では、社長がグラフ等小道具を使って自社を力説。若者の率直な質問にもそつなく応じ、自分もスポーツをすることを説明、最後には手土産を手渡すことまで。全体で約十五分間のビデオになる予定です。

このビデオは、平成三年二月完成予定で、初版三〇〇本制作。青年部、会議所会員や一般へも販売を予定して、予約価格八、〇〇〇円、通常価格一五、〇〇〇円になります。